

質 問



竹 田 努 議員

問 三セク鉄道 1番ホームを使えないか

答 利用は無理 ホームへのエレベーターも設置は困難 —— 町長

質 問 JR北海道から経営分離される三セク鉄道運営については、再三にわたり階段を利用しないで乗り降り可能な1番ホームの活用方法について主張してきましたが、出発信号機の新設など、改修等には相当な費用がかかり、その負担は当町となることから財政的に厳しいと思っております。

ただ、木古内駅を有人化するなど、安全性を確保するための人員増や不要となる1番ホームを撤去するという報告がありました。高齢者等に配慮し、1番ホームの活用を再考すべきだと考えますが、町長の見解を尋ねます。

大森町長 並行在来線の三セク運営に伴い、利便性を高めるために駅舎からホームへのエレベーターの設置を考えましたが、ホームと



三セク運営で利用要望はあったが…
1番ホームは撤去される予定です

階段の関係で構造上、設置はできません。また、階段への昇降リフトの設置も、安全上から介助員が必要であり、三セク会社の駅員の配置も困難であり、協議会等で利便性を求める発言をしてきましたが、今後の進展には期待できません。

安心して暮らせる 福祉都市を目指せ

質 問 高齢化率42%の我が町として、安心して暮らし続けること

ができる「北の大地の福祉都市 きこない」を目指すべきだと思いますが、町長の見解を尋ねます。

大森町長 現在は、関係機関による横断的な連携体制を図る中で、情報の共有化や高齢者福祉サービスマニヤ事業を実施しています。

今後は、医療や介護予防等が確保される地域包括ケアシステムの構築を目指していきたいと考えています。

**管理者が考える
国保病院の将来は**

質 問 病院事業は、介護老人保健施設を含め役場以上の規模となりマンモス化しています。

日本病院機能評価機構の審査結果や診療報酬の改定を踏まえ、新年度の病院の目指す方向性について、管理者の考えを尋ねます。

小澤病院事業管理者

国は、地域包括ケアの実現を目指して診療報酬の改定を行っており、入院・外来を含めた医療機関の機能分化・強化と、連携・在宅医療の充実が必要です。地域病院は、かかりつけ医や主治医という機能を果たすため、積極的に関外に出る主治医になる心構えをつくる必要があります。

介護老健施設を含め、地域包括ケアの構築を目指していきます。